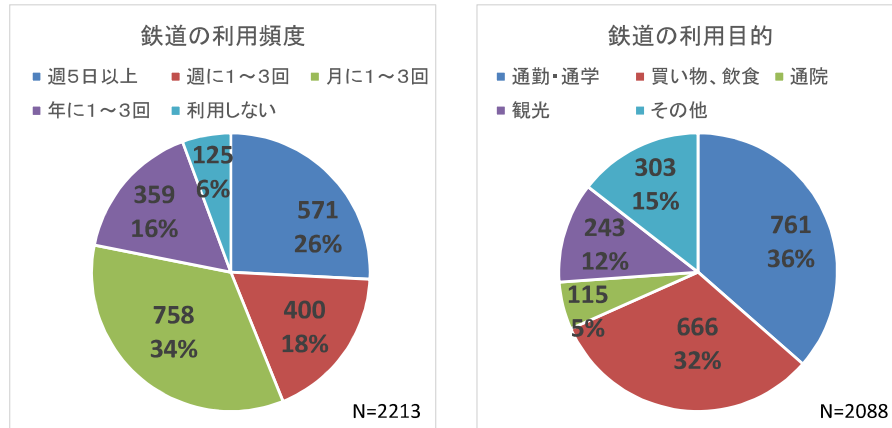


1.4 公共交通に対するニーズ

(1) 鉄道

平成28年7月実施の県政サポーターアンケートでは、鉄道を週1回以上利用する割合は44%で、利用目的は通勤・通学が最も多くなっています。



※インターネット（アンケート専用フォームへの入力）による回答
出典：県政サポーターアンケート「埼玉県の交通（鉄道・バス）について」（H28.7実施）

図 鉄道の利用頻度・利用目的

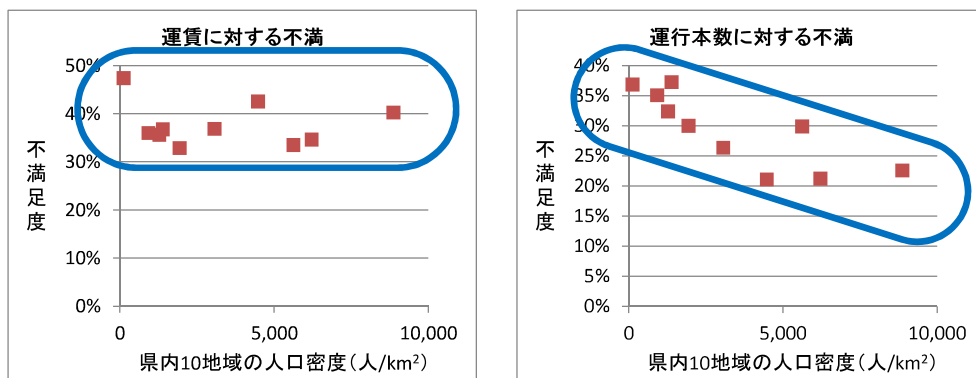
鉄道利用時については、運賃や運行本数に関する不満が高くなっています。

表 鉄道の利用時の不満

内容	割合
運賃を安くして欲しい	36%
運行本数を増やして欲しい	28%
運転時間を長くして欲しい	20%
相互乗り入れを行って欲しい	19%
快速運転を増やして欲しい	15%
その他	9%
車両を増設して欲しい	9%
車両の性能を上げて欲しい	8%
着席サービスが保証された列車を運行して欲しい	8%
とくに改善すべきことはない	6%
わからない	2%
線路を直線にし、スピードが出るようにして欲しい	1%

出典：県政サポーターアンケート「埼玉県の交通（鉄道・バス）について」（H28.7実施）

運賃に対する不満は人口密度に関わらず30%以上となっています。一方、運行本数については、人口密度が低い地域で不満が高くなる傾向がみられます。



出典：県政サポーターアンケート「埼玉県の交通（鉄道・バス）について」（H28.7実施）

図 人口密度と鉄道運賃・運行本数の不満足度との関係

(2) バス

①県内自治体調査結果によるバスに対するニーズ

地域公共交通網形成計画の策定時等にアンケートを実施した41自治体より延べ80の調査結果を収集しました。収集した調査結果は「住民対象調査(44調査)」、「バス等利用者対象調査(22調査)」、「施設利用者対象調査(12調査)」、「交通事業者対象調査(2調査)」に大別されます。

住民対象調査の回収率、及び比較的多くの自治体において設問されている「バスの満足度」を対象とし、地域特性との相関について検証を行いました。

住民対象調査では地域の人口密度に関わらずバスの満足度が30%未満の地域が多くみられました。

表 市町村別調査対象者別実施アンケート調査数と主な調査内容

市町村番号	市町村名	調査対象				合計	調査名	主な調査内容
		住民	バス等利用者	施設利用者	交通事業者			
2	川越市	1				1	住民対象調査	・外出状況(全体、通勤・通学、買物、通院等の「外出先」「頻度」「交通手段」等) ・外出に困っている状況 ・公共交通の利用実態、要望、満足度 ・公共交通を利用しない理由、公共交通への要望・意見等
3	熊谷市	2	1			3		
4	川口市	1				1		
6	秩父市	1				1		
7	所沢市	1				1		
8	飯能市	1	1			2		
9	加須市	1				1		
10	本庄市	1	1	1		3		
11	東松山市	1	1	1		3		
12	春日部市	2				2		
13	狭山市		1	1		2		
14	羽生市	1				1		
15	鴻巣市		1	1		2		
16	深谷市	1	2			3		
17	上尾市	1				1		
18	草加市	1				1		
19	越谷市	2				2		
21	戸田市		1			1		
22	入間市	1	2	1		4		
24	志木市	1				1		
26	新座市		1	1		2		
28	久喜市	3			1	4		
31	富士見市	1				1		
32	三郷市	1	2		1	4		
34	坂戸市		1	1		2		
35	幸手市		1			1		
36	鶴ヶ島市	1	1			2		
37	日高市	1		1		2		
38	吉川市	1				1		
39	ふじみ野市	2				2		
42	三芳町	2	1			3		
43	毛呂山町	1				1		
47	小川町	1				1		
48	川島町	1		2		3		
49	吉見町	3	1	1		5		
50	鳩山町	1	2			3		
56	東秩父村	1	1	1		3		
57	美里町	1				1		
58	神川町	1				1		
59	上里町	1				1		
61	富代町	1				1		
合計		44	22	12	2	80		

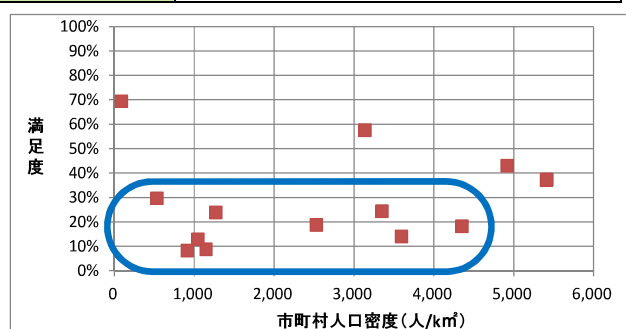


図 人口密度と満足度との関係
(住民対象調査結果)

<参考>特徴的な調査内容

最寄り駅が町外となっている吉見町では、高校生ならびにその保護者に、それぞれ右記の内容のアンケートを実施しています。その結果、保護者からは通学時の送迎について負担を感じている割合が約半数となっています。

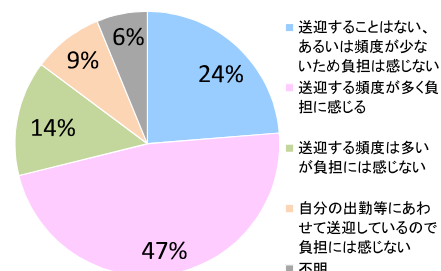
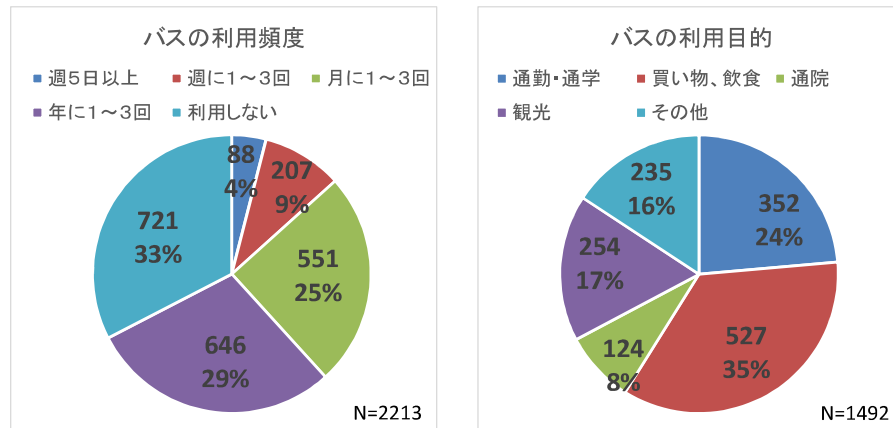


図 吉見町アンケートによる送迎時の負担の有無

② 県政サポーターアンケートによるバスに対するニーズ

平成 28 年 7 月実施の県政サポーターアンケートでは、バスを週 1 回以上利用する割合は 13%で、利用目的は、買い物・飲食が最も多くなっています。



※インターネット（アンケート専用フォームへの入力）による回答
 出典：県政サポーターアンケート「埼玉県の交通（鉄道・バス）について」（H28.7実施）

図 バスの利用頻度・利用目的

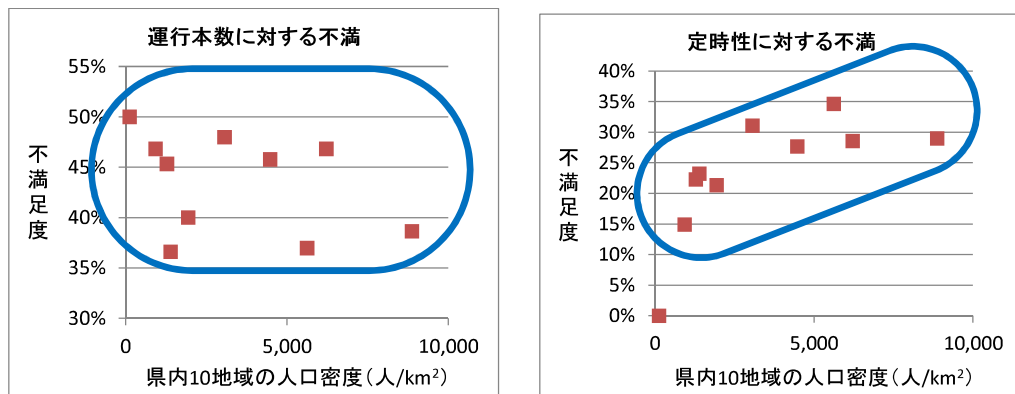
また、バス利用時では、運行本数や定時性に関する不満が高くなっています。

表 バスの利用時の不満

内容	割合
運行本数を増やしてほしい	41%
時刻表通りに運行してほしい	28%
運賃を安くしてほしい	20%
路線図や系統を見やすく、わかりやすくしてほしい	19%
鉄道との乗換えやバス同士の乗り継ぎをやすくしてほしい	15%
始発を早く、終発を遅くなど運転時間帯を長くしてほしい	13%
停留所（ベンチ、上屋）の整備をしてほしい	13%
特に不満に感じていない	8%
所要時間を短縮してほしい	4%
バス停を増やしてほしい	4%
その他	4%

出典：県政サポーターアンケート「埼玉県の交通（鉄道・バス）について」（H28.7実施）

人口密度に関わらず運行本数に関する不満が高い傾向がみられます。また、人口密度の高い地域において定時性に対する不満が高くなる傾向がみられます。



出典：県政サポーターアンケート「埼玉県の交通（鉄道・バス）について」（H28.7実施）

図 人口密度とバス運行本数・定時性の不満足度との関係

(3) タクシー

内閣府が実施した「公共交通に関する世論調査」では、月数回程度タクシーを「利用している」の割合は全国で28.5%、「利用していない」の割合は71.5%となっています。

都市規模別にみると「利用している」と答えた割合は大都市で「利用していない」と答えた割合は小都市で、それぞれ高くなっています。

表 タクシー利用の有無

	利用している %	利用していない %
大都市	37.3	62.7
中都市	26.6	73.4
小都市	23.9	76.1
町村	26.8	73.2
全国	28.5	71.5

N=1899

※大都市：東京都区部、政令指定都市、中都市：人口10万人以上の市、小都市：人口10万人未満の市
出典：公共交通に関する世論調査 H28.12 内閣府

また、利用しない理由としては「自動車などを利用するから」の割合が66.5%と最も高く、以下「料金が高いから」、「タクシー以外の公共交通機関を利用するから」の順となっています。

都市規模別にみると「自動車などを利用するから」の割合は小都市・町村で高く、「タクシー以外の公共交通機関を利用するから」の割合は大都市で高くなっています。

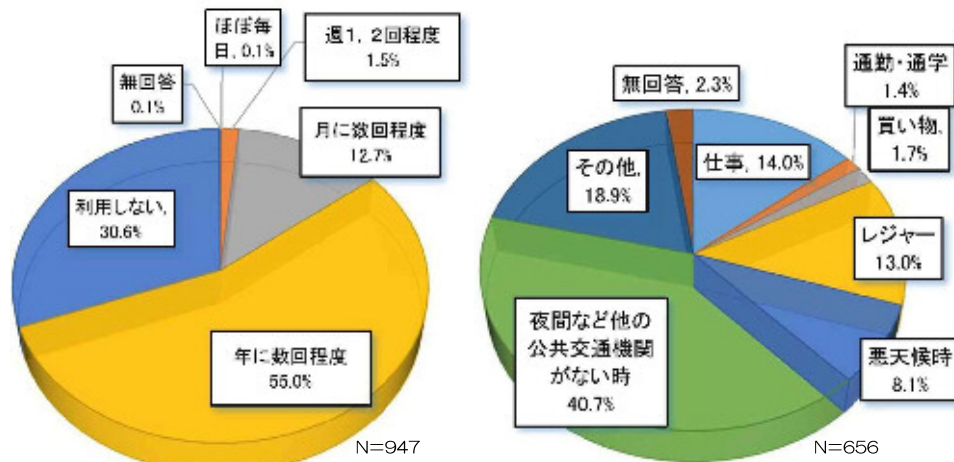
表 タクシーを利用しない理由

	自動車などを利用するから %	料金が高いから %	タクシー以外の公共交通機関を利用するから %	出かける機会が少ないから %	タクシーを呼んだり、捕まえたりするのが手間だから %	乗車前に値段がわからないのが嫌だから %	目的地への行き方を説明するのが面倒だから %	利用できるタクシー会社が地域になら %	その他 %	特にな %	わから %
大都市	44.9	37.6	36.2	18.8	9.8	4.9	1.7	1.0	1.7	0.3	0.0
中都市	67.1	33.8	19.7	14.3	10.7	4.8	2.7	2.4	1.7	2.0	0.5
小都市	75.5	32.9	10.1	12.1	9.8	2.9	0.9	0.9	2.0	1.2	0.3
町村	86.6	29.9	5.2	9.0	9.0	3.7	1.5	3.7	1.5	1.5	0.0
全国	66.5	34.0	19.3	14.1	10.1	4.2	1.9	1.8	1.8	1.4	0.3

N=1357

※大都市：東京都区部、政令指定都市、中都市：人口10万人以上の市、小都市：人口10万人未満の市
出典：公共交通に関する世論調査 H28.12 内閣府

平成 27 年に国土交通省が実施した「タクシーに関するアンケート調査」では、タクシーを利用する頻度は年に数回程度が最も多く、利用目的は、夜間など他の公共交通機関がない時が最も多くなっています。



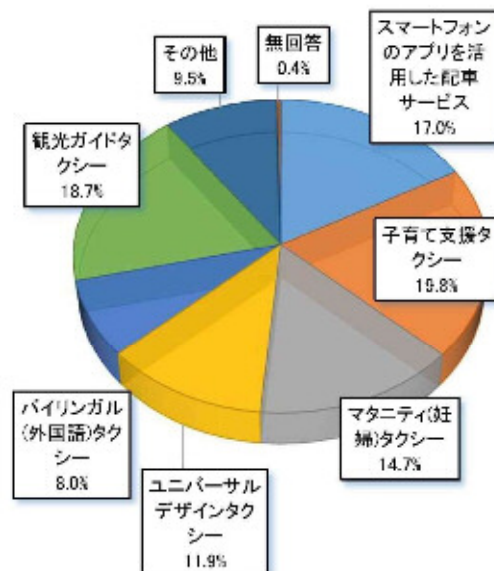
出典：タクシーに関するアンケート調査 H27.3 国土交通省

図 タクシーの利用状況 (左) ・タクシーの利用目的 (右)

普及を望むタクシーサービスとして「子育て支援タクシー」、「観光ガイドタクシー」、「スマートフォンのアプリを活用した配車サービス」が約 20%、「マタニティ(妊婦)タクシー」が約 15%、「ユニバーサルデザインタクシー」が約 10%となっています。

問18 普及を望むタクシーサービスはどのようなものですか(複数選択可)

選択肢	回答	回答数	割合
1	スマートフォンのアプリを活用した配車サービス	313	17.0%
2	子育て支援タクシー	365	19.8%
3	マタニティ(妊婦)タクシー	272	14.7%
4	ユニバーサルデザインタクシー	220	11.9%
5	バイリンガル(外国語)タクシー	147	8.0%
6	観光ガイドタクシー	346	18.7%
7	その他	176	9.5%
8	無回答	7	0.4%
計		1,846	100.0%



出典：タクシーに関するアンケート調査 H27.3 国土交通省

図 普及を望むタクシーサービス

(4) 公共交通全般

平成29年7月～8月にかけて実施した県政サポーターアンケートから公共交通に対するニーズ等を整理しました。

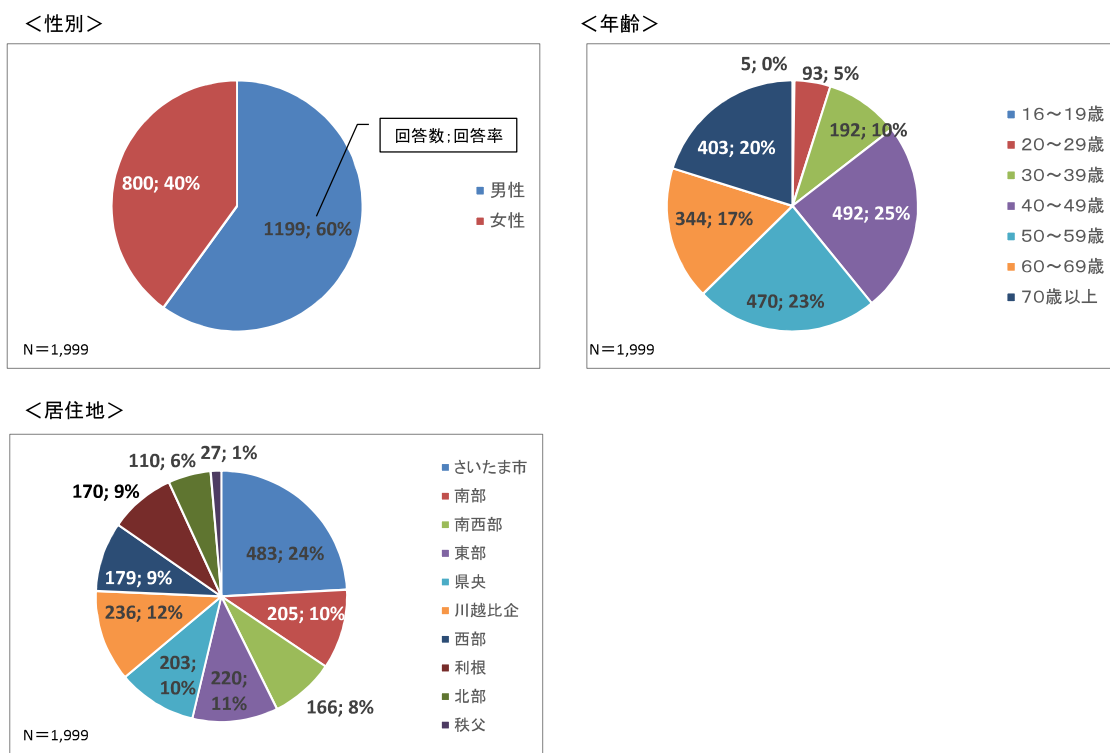
①アンケート実施概要・回答者の属性

H29.7.27～8.2 にかけて、埼玉県の公共交通に関する県政サポーターアンケートを実施しました。

回答者数は1,999人、回答率は68.1%となっています。

男女比は6:4、年齢構成は40代、50代、70歳以上がそれぞれ20%程度となっています。

居住地分布は、さいたま市が24%で最も多く、北部と秩父地域を除く各地域が10%程度となっています。



出典：県政サポーターアンケート「埼玉の公共交通について」（H29.7実施）

図 回答者の属性（性別・年齢・居住地）

② 駅・バス停までの距離

最寄りの鉄道駅までの距離は1km以上が約半数を占め、次いで500m～1km未満が30%となっています。県内3地域区分でみると、県南部は鉄道網が充実しているため、1km未満の割合が約半数を占めるものの、鉄道があまりない県北部は1km未満の割合が30%台となっています。

最寄りのバス停までの距離は300m未満が約半数を占め、次いで300m～500m未満が26%となっています。なお、最寄りバス停までの距離がわからない回答者が9%であり、鉄道駅の2%と比較して7%も多くなっています。県内3地域区分でみると、300m未満の割合はバス網が充実している県南部で約半数を占め、県中部、県北部の順で割合が少なくなっています。

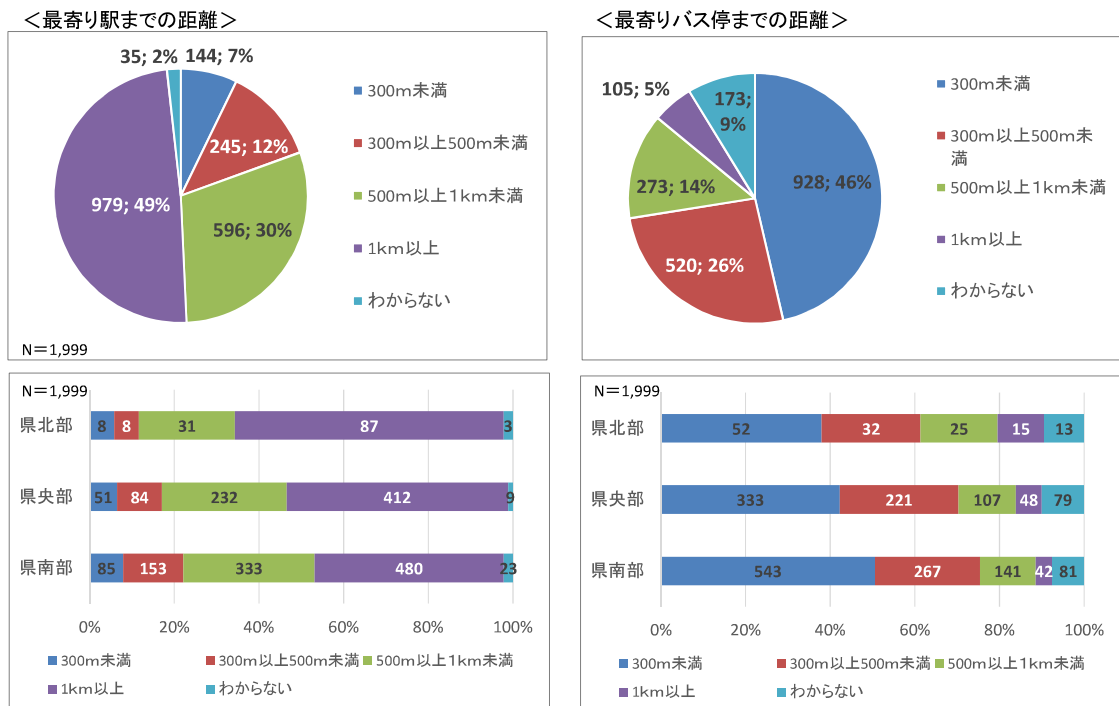


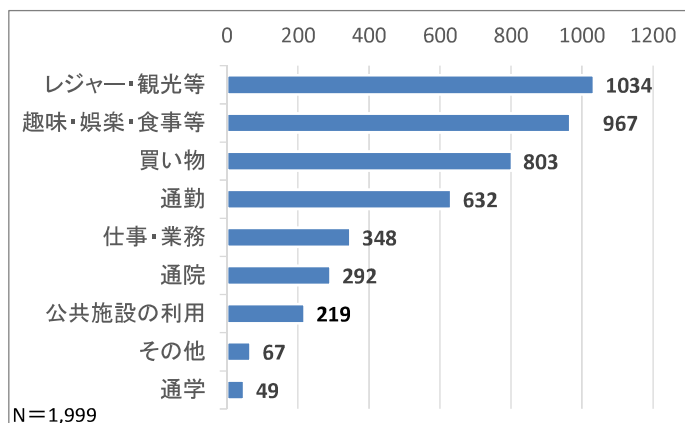
図 駅・バス停までの距離

③公共交通利用目的

公共交通の利用目的はレジャー・観光、趣味・娯楽・食事等、買い物等が多くなっています。回答を平日・休日の区分や頻度によらず、3つまでの複数回答にしたため、主に休日の移動に公共交通が利用されているという結果となっています。

<公共交通利用目的>

「あなたが公共交通を利用する目的は何ですか。主なものとして該当するものを3つ以内で選択してください。」



※複数回答

出典：県政サポーターアンケート「埼玉の公共交通について」（H29.7実施）

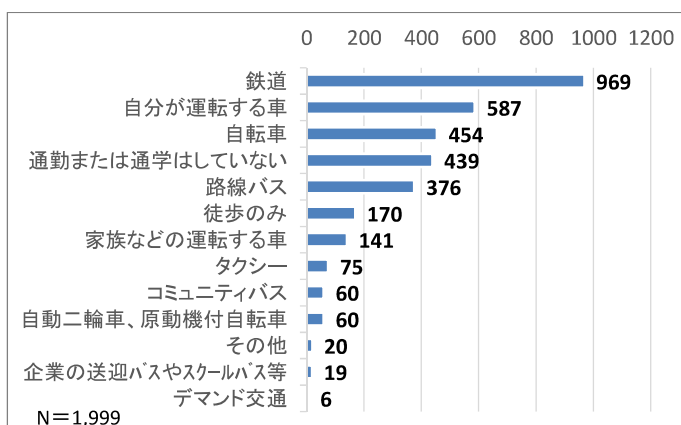
図 公共交通利用目的

④通勤・通学時の移動手段

通勤・通学時の交通手段は鉄道が最も多く、次いで自分が運転する車、自転車の順となっています。

<通勤・通学時の移動手段>

「あなたの通勤または通学先への移動手段は何ですか。該当するものすべてを選択してください。」



※複数回答

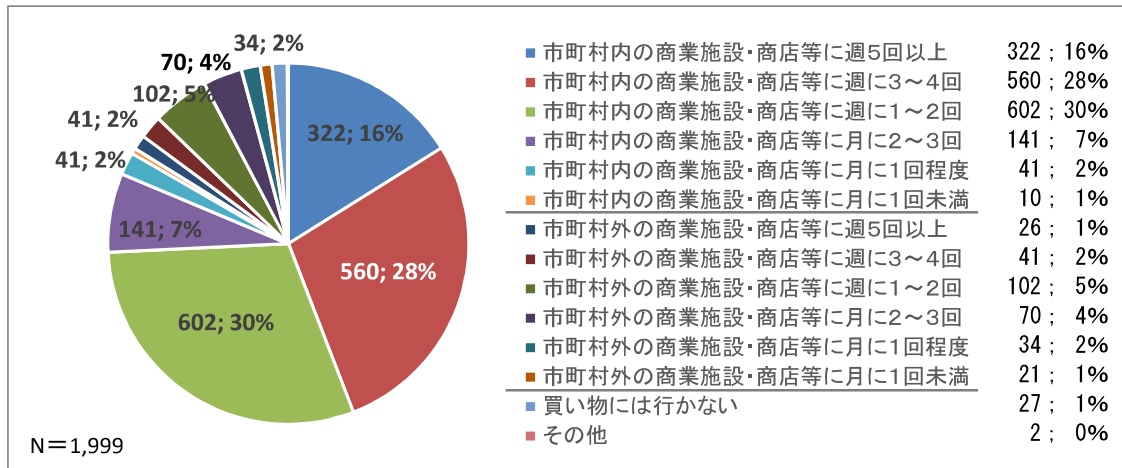
出典：県政サポーターアンケート「埼玉の公共交通について」（H29.7実施）

図 通勤・通学時の移動手段

⑤買物先と頻度

買物先と頻度では、自市町村内の商店等に週1～2回が30%と最も多く、次いで、自市町村内の商店等に週3～4回が28%、自市町村内の商店等に週5回以上が16%であり、他市町村への買物はそれほど多い結果になっていません。

＜買物先と頻度＞ 「あなたのお住まいからの買物先と頻度についてお尋ねします。最もあてはまるものを1つ選択してください。」



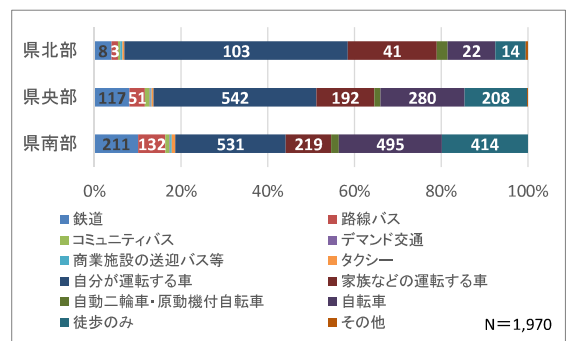
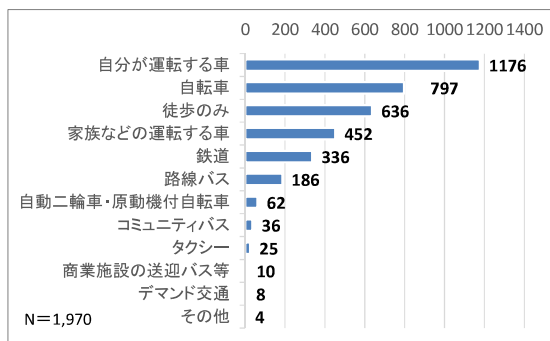
出典：県政サポーターアンケート「埼玉の公共交通について」（H29.7実施）

図 買物先と頻度

⑥買物先への移動手段

県内3地域区分で見ると、鉄道・路線バス等の公共交通機関は、県南部で割合が高く、県北部で低くなっていますが、いずれの地域においても全体に占める割合は1割以下となっています。3地域ともに、自分が運転する車、家族などの運転する車の占める割合が高くなっています。県南部では、商業施設、店舗が充実していることから、自転車や徒歩の割合が高くなっています。

＜買物先への移動手段＞ 「買い物先への移動手段は何ですか。該当するものをすべて選択してください。」「買い物には行かない」、「その他」を除く



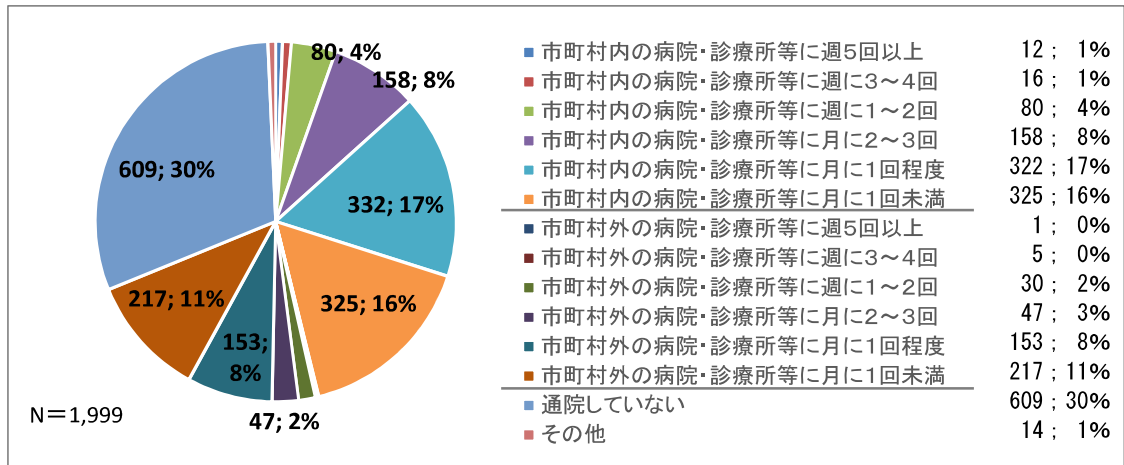
出典：県政サポーターアンケート「埼玉の公共交通について」（H29.7実施）

図 買物先への移動手段

⑦通院先と頻度

通院先と頻度では、通院をしていない回答を除くと、各市町村内の病院等に月に1回程度が17%、月に1回未満が16%で多く、次いで、他市町村の病院等に月1回程度が11%となっています。

＜通院先と頻度＞「あなたのお住まいからの主な通院先と頻度についてお尋ねします。最もあてはまるものを1つ選択してください。」



出典：県政サポーターアンケート「埼玉の公共交通について」（H29.7実施）

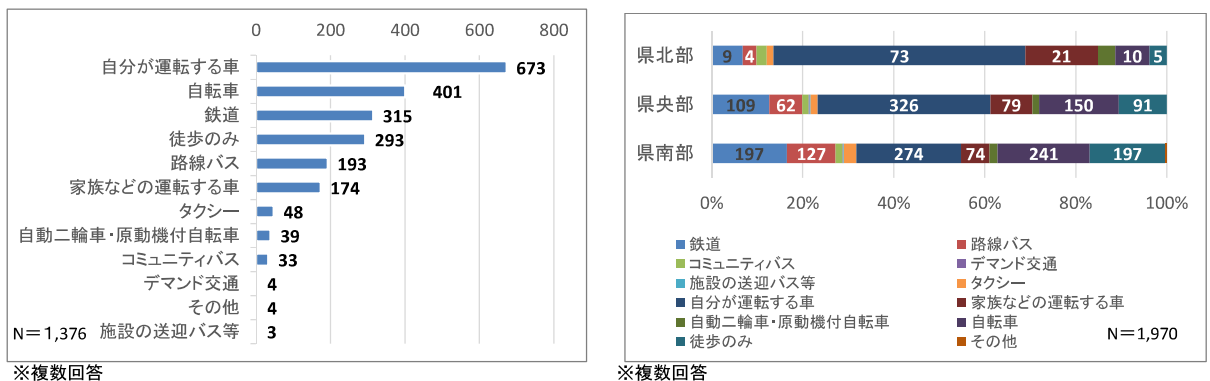
図 通院先と頻度

⑧通院先への移動手段

通院先への移動手段は自分が運転する車が最も多く、次いで自転車、徒歩で、買い物と同様に公共交通を利用するという回答は少なくなっています。

県内3地域区分で見ると、鉄道・路線バス等の公共交通機関は、県南部で割合が高く、県北部で低くなっています。3地域ともに、自分が運転する車の占める割合が高くなっています。県南部では、病院や診療所が充実していることから、自転車や徒歩の割合が高くなっています。

＜通院先への移動手段＞「主な通院先への移動手段は何ですか。該当するものをすべて選択してください。」（「通院していない」、「その他」を除く）



出典：県政サポーターアンケート「埼玉の公共交通について」（H29.7実施）

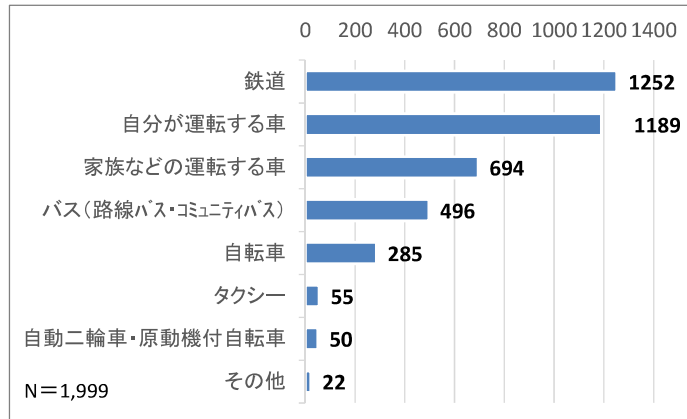
図 通院先への移動手段

⑧ レジャー・観光先への移動手段

レジャー・観光先への移動手段は鉄道と自分が運転する車が多く、次いで、家族が運転する車、バスの順となっています。

<レジャー・観光時の移動手段>

「あなたが県内のレジャー施設や観光地に行く場合の移動手段は何ですか。該当するものをすべて選択してください。」



※複数回答

出典：県政サポーターアンケート「埼玉の公共交通について」（H29.7実施）

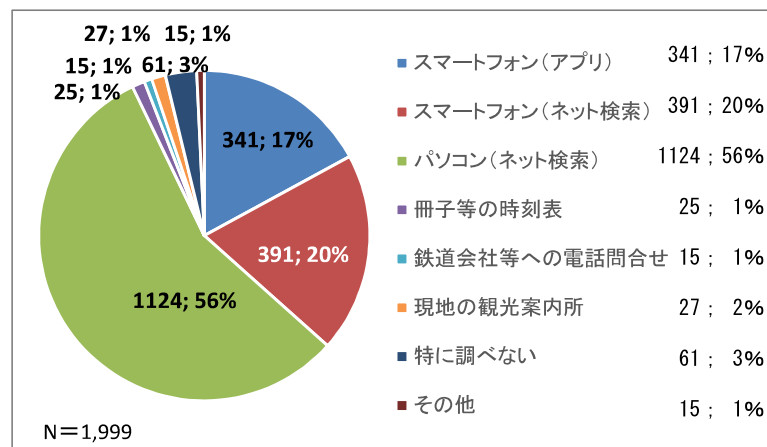
図 レジャー・観光先への移動手段

⑨ レジャー・観光時に公共交通を利用する場合の情報入手

レジャー・観光等で公共交通を利用する場合の移動方法などの情報入手手段は、パソコンによるネット検索が56%と最も多く、次いでスマートフォン（アプリ、ネット検索合計で37%）となっています。

<レジャー・観光時に公共交通を利用する場合の情報入手>

「レジャーや観光、仕事などで初めての場所を訪れる時に、鉄道やバスを利用する場合、移動方法などの事前情報入手はどのようにしていますか。主な情報入手先を1つ選択してください。」



出典：県政サポーターアンケート「埼玉の公共交通について」（H29.7実施）

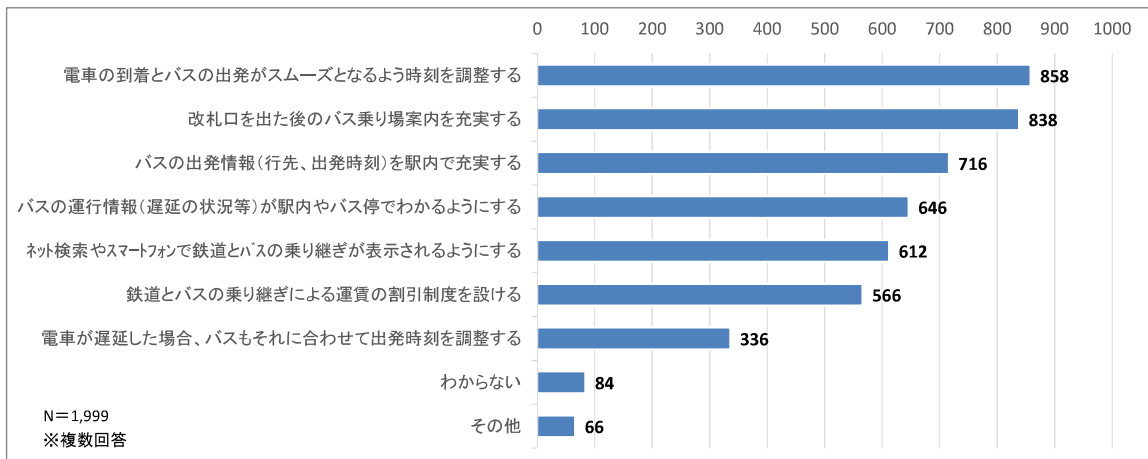
図 レジャー・観光時に公共交通を利用する場合の情報入手手段

⑩公共交通の乗り継ぎについて

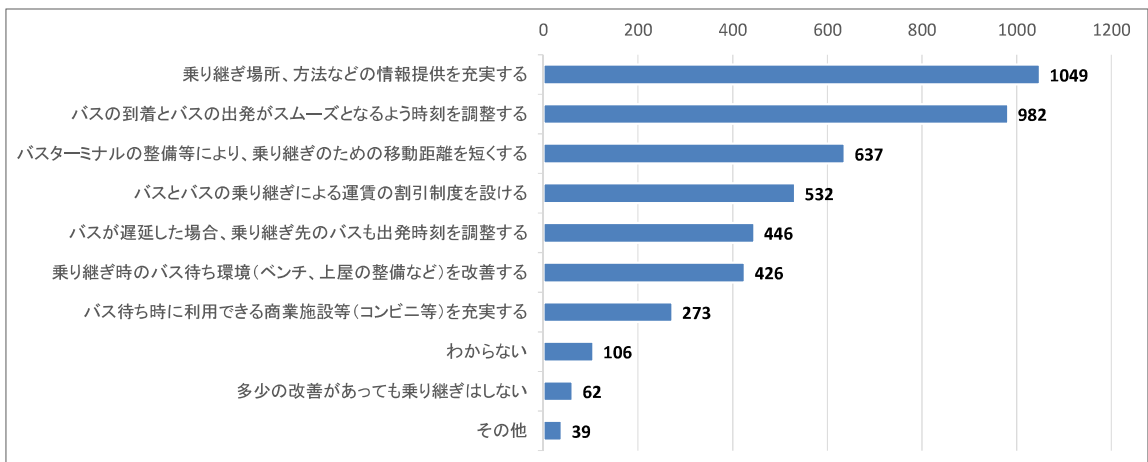
鉄道とバスの乗り継ぎの改善方策としては電車とバスのダイヤ調整を望む回答が最も多く、次いで駅でのバス案内の充実を望む回答（駅でのバス乗り場案内、駅でのバスの出発情報、駅でのバスの運行情報）が多くなりました。

バスとバスの乗り継ぎの改善方策としては、乗り継ぎ場所や方法などの情報提供の充実を望む回答が最も多く、次いでバス同士のダイヤ調整を望む回答が多くなりました。

＜鉄道とバスの乗り継ぎについて＞「鉄道とバスの乗り継ぎを改善するためには、どのようなことをすれば良いと思いますか。該当するものを3つ以内で選択してください。」



＜バスとバスの乗り継ぎについて＞「バスとバスの乗り継ぎをスムーズに行うためにはどのようなことをすれば良いと思いますか。該当するものを3つ以内で選択してください。」



出典：県政サポーターアンケート「埼玉の公共交通について」（H29.7実施）

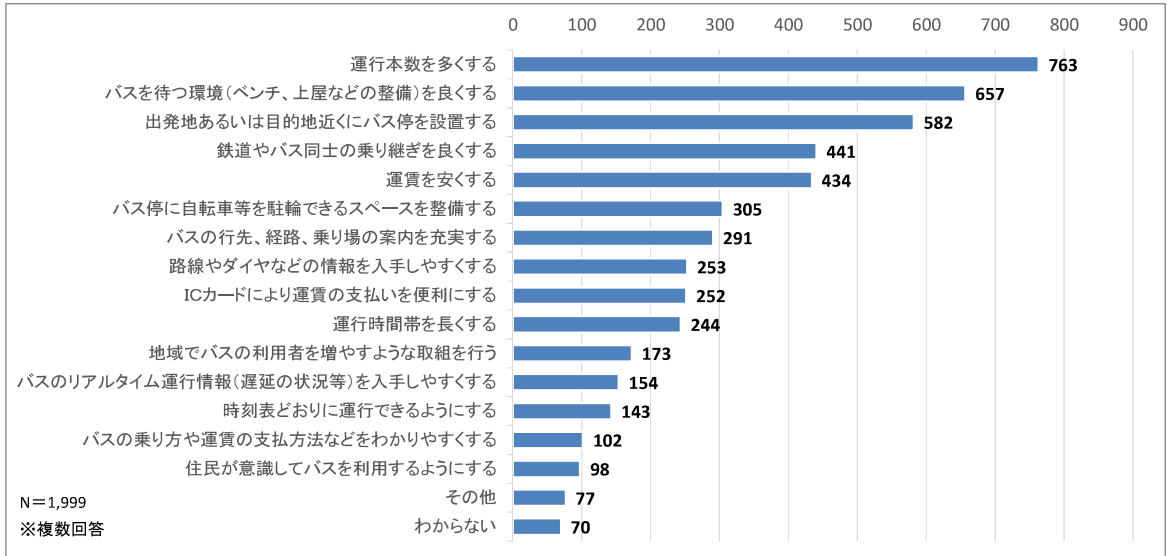
図 公共交通の乗り継ぎについて

⑪公共交通の維持について

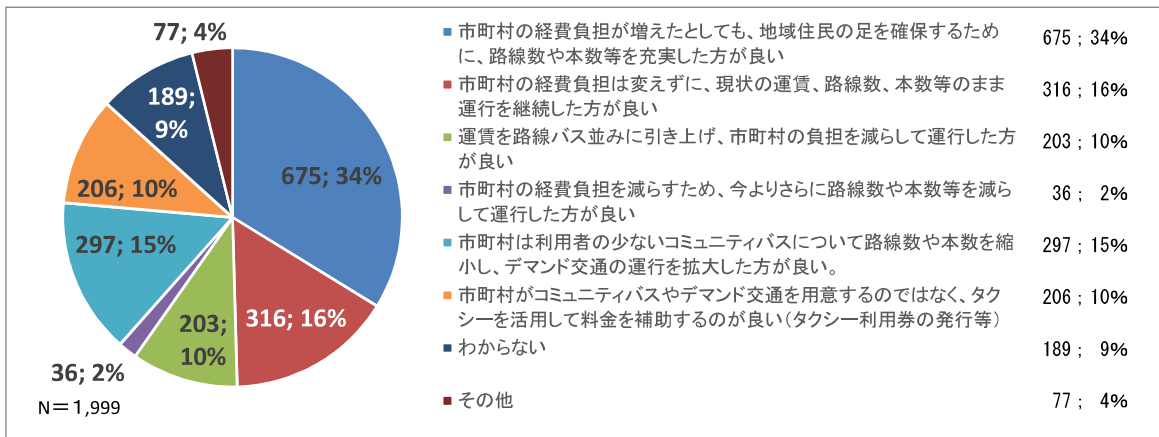
路線バス利用者の増加策としては、運行本数の増加を望む回答が最も多く、次いでバス待ち環境の向上、バス停の設置を望む回答が多くなりました。

コミュニティ交通の維持・確保策としては、市町村の経費負担が増えても、路線や本数の充実を望む回答が最も多く、次いで、現状維持、利用者の少ないコミュニティバスを縮小し、デマンド交通の拡大を望む声が多くなりました。

「利用者が少ない地域等でバス路線を維持するには、住民等の利用者を増やすとともに、観光客等の来訪者の利用を増やす必要があります。そのために、今後、どのようなことを行えば良いと思いますか。該当するものを3つ以内で選択してください。」



「路線バスが運行していない地域等で運行されることの多い、コミュニティバスやデマンド交通は、市町村がその経費を負担しています。今後、少子・高齢化が進展する中で、どのような対応が望ましいと思いますか。該当するものを1つ選択してください。」



出典：県政サポーターアンケート「埼玉の公共交通について」(H29.7実施)

図 公共交通の維持について

1.5 県内交通事業者の状況

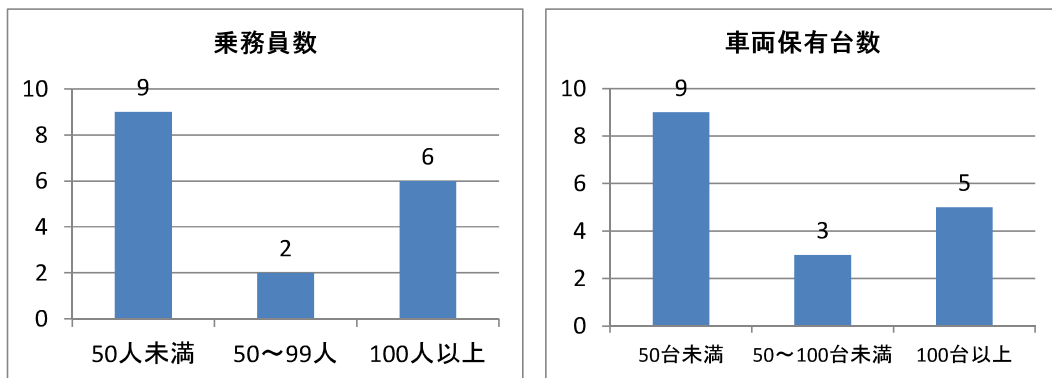
(1) バス

①バス事業者アンケートの概要

埼玉県内の路線バス事業者 19 社に対し、バス事業の実績、問題点・今後の営業方針に関するアンケートを平成 28 年 9 月に配布し、17 社から回答を得ました。

②バス事業者の規模

回答のあったバス事業者の乗務員数、車両保有台数をみると、乗務員数が 50 人未満、車両保有台数が 50 台未満の比較的小規模な事業者が半数を占めています。



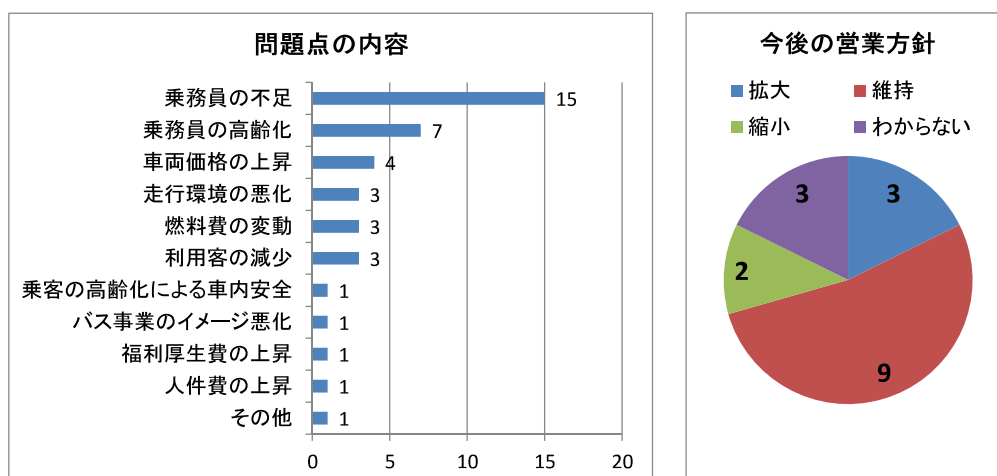
出典：バス事業者アンケート調査結果（H28.9実施）

図 アンケートに回答のあったバス事業者の乗務員数・車両保有台数

③バス運行に関する現在の問題点と今後の営業方針

問題点の内容については、乗務員の不足を挙げる事業者が 15 社（88%）、乗務員の高齢化を挙げる事業者が 7 社（41%）と多くなっています。また、車両価格の上昇（4 社、24%）や燃料費の変動（3 社、18%）などコスト増を挙げる事業者も多くなっています。

また、今後の営業方針では、維持が 9 社（53%）と最も多く、拡大・わからないが 3 社（18%）となり、縮小を考えている事業者は 2 社（12%）ありました。



出典：バス事業者アンケート調査結果（H28.9実施）

図 アンケートに回答のあったバス事業者の問題点・今後の営業方針

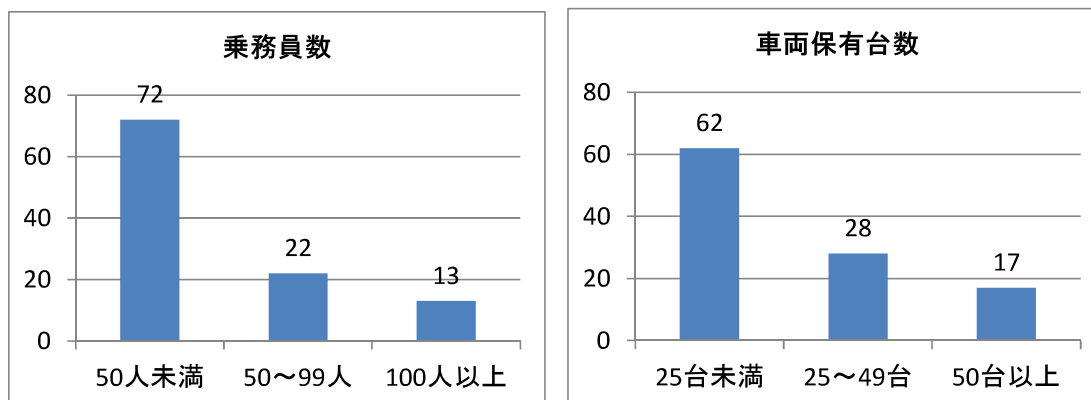
(2) タクシー

① タクシー事業者アンケートの概要

埼玉県内のタクシー事業者 175 社に対し、タクシー事業の実績、問題点・今後の営業方針に関するアンケートを平成 28 年 9 月に配布し、107 社から回答を得ました。

② タクシー事業者の規模

回答のあったタクシー事業者の乗務員数、車両保有台数をみると、乗務員数が 50 人未満の事業者が 67%、車両保有台数が 25 台未満の事業者が 58%を占めています。



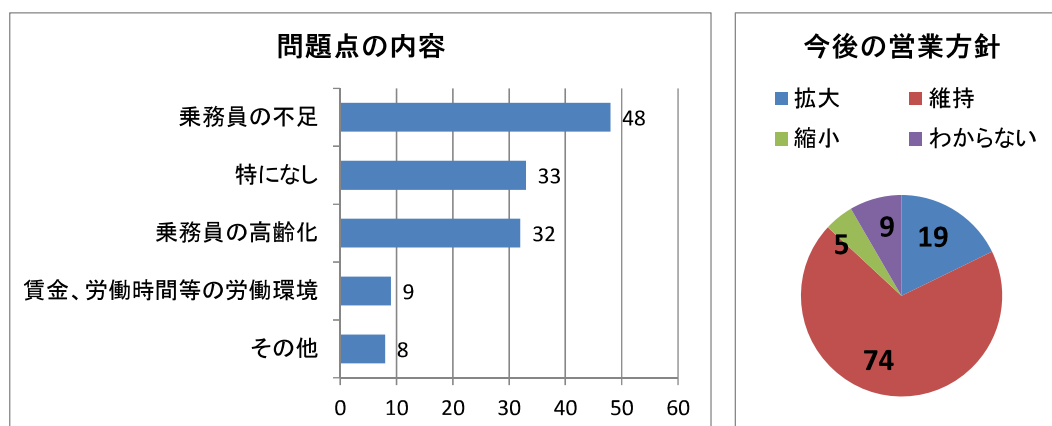
出典：タクシー事業者アンケート調査結果（H28.9実施）

図 アンケートに回答のあったタクシー事業者の乗務員数・車両保有台数

③ タクシー運行に関する現在の問題点・今後の営業方針

問題点の内容については、乗務員の不足を挙げる事業者が 48 社（45%）で最も多くありました。次いで多かったのは問題点が特にないという事業者（33 社、31%）でした。

また、今後の営業方針では、維持が 74 社（69%）と最も多く、次いで拡大が 19 社（18%）となり、縮小を考えている事業者は 5 社（5%）ありました。



出典：タクシー事業者アンケート調査結果（H28.9実施）

図 アンケートに回答のあったタクシー事業者の問題点・今後の営業方針